



長門の話題

Topics

サバーサマ・サネモリサマが出発 害虫を防ぐ行事を引き継ぐ

7月5日(土)、サバー送りが飯山八幡宮を出発しました。サバー送りは稲の害虫を防ぐための「虫送り」と言われている行事で、毎年6月の終わりから7月の下旬にかけて行われています。上郷、江良、藤中、中山の4地区が輪番で担当しており、今年は上郷農事組合のメンバー8人が、藁

と竹で作られたサバーサマとサネモリサマを境川を経由して日置地区の長崎のトンネルまで運びました。ここからは、黄波戸、古市、久富、人丸、河原、伊上を経て、下関市豊北町へ入ります。最後は湯玉の犬鳴岬から海に流されたり、燃やされたりするということです。



▲東深川の飯山八幡宮を出発



▲7月12日には、油谷地区の東大坊公会堂に



▲今年是比较的漂流物は少なめ



▲学校や企業単位での参加者も多く見られた只の浜海水浴場

長門市海岸清掃の日 誇りの海をきれいに守る

7月6日(日)、「長門市海岸清掃の日」が実施され、市内の各海岸で漂着ゴミの回収などが行われました。これは、「日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃」の一環として実施されているもので、市民の誇り、大切な財産である美しい海を次世代に引き継いでいこうと、平成18年にスタートしま

した。このうち只の浜海水浴場では地区住民など約160人が参加。漂着ゴミの収集は約1時間実施され、海水浴場はきれいになりました。この日の海岸清掃には市内全域で1,235人が参加し、可燃ゴミ6,980kg、不燃ゴミ480kgが集められました。

榎取素彦のやしやご、榎取能彦氏が表敬訪問 思い出の地をぜひテレビに

7月1日(火)、平成27年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公 文(ふみ)の夫である榎取素彦のやしやご、榎取能彦氏が大西市長を表敬訪問しました。榎取氏は東京都狛江市在住。疎開先の旧三隅町で生まれ、その後東京に移りました。

榎取氏は「長門は心安らぐ、思い出深い土地です。ぜひ大河ドラマで取り上げてもらいたい」と話しました。三隅の二条窪地区には、榎取素彦と文の姉で妻の寿(ひさ)が暮らした住居の跡が残っています。寿の死後、榎取素彦は文と結婚しました。



▲力いっぱい網を引っ張る(地引網体験スクール)



▲親子で釣りに挑戦(フィッシングスクール)

「俵山・案山子」作り方教室 かかしを地域おこしに

6月24日(火)、俵山公民館で、「スーパー案山子★わらべの里・俵山づくりプロジェクト」による「俵山・案山子」の作り方教室が開催されました。これは、大分県中津市が「かかしワールド」の取り組みにより、地域の活性化を図っていることに習い、俵山地区で

もかかし作りに取り組むことになったものです。木材と針金を芯にわらを巻いたかかしの体に、ビニール袋を巻いて、さらに子ども服を着せて完成します。参加者は文化産業祭までに60体のかかしを作ろうと張り切っていました。



▲この日は頭だけを作った

長門ヨットフェスタ2014、スタート 豊かな海の恵みに触れる

今年も長門ヨットフェスタがスタート、関連イベントが開催されました。6月28日(土)、マリネ塾「地引網体験スクール」が深川湾で行われ、約75人の親子が参加しました。2つのグループに分かれて一列に並び、声をかけ合いながら力いっぱい網を引きまします。子どもたちは、普段あま

り目にするのではない魚をおそるおそる触っていました。7月6日(日)には、湊漁港でフィッシングスクールが開催され、約50人の親子が釣りを楽しみました。初めはなかなか釣れませんが、慣れてくると次々に釣れ始め、最終的には138匹の小アジをつり上げた参加者もいました。



河村 誠治 かわむら せいじ

昭和42年4月長門市仙崎生まれ。平成18年10月にふるさとまつりにおいて開催された「世界一長いやきとりに挑戦」に尽力。その後、2度の挑戦を続けて23.42mという世界記録を更新、長門市のPRに貢献した。現在の世界記録は北海道美瑛市の持つ、24.83m。平成21年10月に開催された第3回やきとリンピックで実行委員長を務める。今年30日(土)・31日(日)に青海島シーサイドスクエアで開催される第8回全国やきとリンピック in 長門&川辺の音楽祭2014においても実行委員長として重責を担う。現在47歳。

人口1万人あたりのやきとり店舗数が全国トップクラスであるやきとりのまち「長門市」。

古くからかまぼこの生産が盛んで、鶏の餌となる魚のアラが安く豊富に手に入ることから、養鶏業が盛んになったといわれています。

このやきとりを使って地域おこしをしようとしたのが河村さんら当時の(株)長門青年会議所の会員は、ながとふるさとまつりにおいて「世界一長いやきとりに挑戦」に3年間挑み、世界記録を更新し続けました。

「竹採りに苦労したが、挑戦を通して出会った人たちとの交流が今、かけがえのない財産となっている」この出会いがやきとリンピック開催へとつながっています。

交流人口の増加を図ろうと長門市で開催した第3回やきとリンピックでは「燃え尽きてしまった」と反省。「やきとりに関する新たな仕掛けを考えている」と話す河村さんのこれからの活動にも目が離せません。

今回は、湯本で行われていたジャズフェスタとの同時開催。軽快なジャズのリズムと食欲をそそるやきとりの香りに包まれた会場で河村さんは、おいしさを運び、しあわせを届けます。

第10回長門市老人クラブシニアフェスティバル

いつまでも元気に活動を

6月30日(月)、第10回長門市老人クラブ連合会「シニアフェスティバル」が長門市中央公民館で開催されました。冒頭、表彰式が行われ、老人クラブの発展に功労のあった人や団体に表彰状と記念品が贈られました。続いて、健康運動指導士の

蔵本加寿恵さんが、健康寿命延命のためのトレーニング方法を指導。蔵本さんは「覚えてたトレーニングを日常生活において実践してください」と話しました。

なお、午後からは老人クラブの活動の成果を披露する発表大会が行われました。



▲フェスティバルでの式典の様子



▲指導する宝来選手(左)と杉山選手(右)

7月19日(土)、ルネッサなごとで全日本女子バレーボールチームで活躍した選手を招いてバレーボール教室が行われました。講師として招かれたのは、宇部市出身の宝来麻紀子さんと、昨年で引退した杉山祥子さんです。この日は、県内各地から小中学生や高校生約220人が参加しました。

2人の元全日本選手から、子どもたちはパスやレシーブの動作の基本や、瞬時に判断してパスをすることなどを習いました。

教室の最後には、サーブを打ち、ボールが当たった賞品をもらえるゲームにチャレンジ。子どもたちは懸命に賞品を狙っていました。

元全日本選手によるバレーボール教室

基本を一流選手から学ぶ

あこがれの仕事を実現

青海島観光汽船に初の女性船長



▲船長から直接研修を受ける岡村さん(左)

7月1日(火)、青海島観光汽船株式会社にて、初めて船長となる女性が入社しました。

入社したのは、黄波戸在住の岡村有菜さん(23歳)です。

岡村さんは水産高校の専攻科航海科で1級小型船舶操縦士と3級海技士の免許を取得、卒業後、大阪で客船の船長などを経験。今年2月にUター

ンし、就職が決まりました。

岡村さんは、「父や兄が船乗りをしており、自分も海が好きで、海の仕事に憧れていました。今、船長になれるよう勉強しているところです。早く仕事を覚えて、この長門市を盛り上げていきたいと思っています」と話しました。

これから半年程度研修を受け、その後船長として乗務することになっています。